本事業初めての
体験先での実施！

新たな体験先を開拓し，成果を生んだ体験活動の先進例

「心たくましく　学びたしかに」

～成長を実感できる野外活動～

広島市立藤の木小学校　　対象学年（５年）

【体験活動場所・宿泊場所】国立山口徳地青少年自然の家

【実施期間】平成２６年７月２２日（火）～７月２５日（金）

【学校紹介】

○近況：本校は，平成２年に開校し，今年で開校２５年を迎える。広島市佐伯区の北西，名山「窓が山」のふもとに開かれた藤の木団地に位置し，平成８年に児童数８４８名とそのピークを迎えて以降，児童数は少しずつ減少し，現在，児童数２１８名の小規模の学校である。

平成２２～２４年度までの３年間に総務省の「フューチャースクール推進事業」，平成２３～２５年度までの３年間に文部科学省の「学びのイノベーション事業」の研究指定校として，電子黒板や実物投影機，児童一人一台のタブレットＰＣを使った授業に取り組んできた。電子黒板に転送された自分のパソコンの画面を指し示しながら，自分の意見を友達に分かりやすく伝えたり，プレゼンソフトや自分たちが撮った写真などを使って，活動の様子を分かりやすく整理したりするなど，最先端の情報技術を使った授業に取り組む一方，校訓「心たくましく　学びたしかに」のもと，知・徳・体の教育をバランスよく実践する取組も行っている。

知を育むための実践では，自主勉強を積極的に行い，自ら学ぶ姿勢を育てている。徳を耕すための実践では，表彰制度を設け，大会に参加した児童や，学校の取組でがんばった児童を学校朝会で表彰している。体を鍛える実践では，年間を通じて，学校全体で，ドッジボール大会，単縄大会などのスポーツ大会を行っている。

○校長名：森川康男

○児童数（学級数）：２１８名（９学級）

○所在地：広島市佐伯区藤の木２丁目２－１

○電話番号：０８２－９２７－４５４５

【体験活動のねらい】

○豊かな自然の中での活動や体験を通して，自覚ある態度をもってみんなで協力し，楽しく規律ある生活を送る。

【日程（活動プログラム）】

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	朝の活動		朝食	午前の活動			昼食	午後の活動					夕食	夜の活動			
第1日					登校・健康観察	出発式学校出発 移動	昼食	入所式		オリエンテーリング		タベのつどい	夕食	入浴	身辺整理	天体観測	
第2日		早朝登山	朝食（パン作り）		野外炊飯		昼食	片づけ		マウンテンバイク		タベのつどい	夕食	入浴	身辺整理	ナイトウォーク	
第3日		起床清掃朝のつどい	朝食		野外炊飯		昼食	片づけ		スタンツ練習		タベのつどい	夕食	ファイヤー準備		キャンプファイヤー	入浴
第4日		起床清掃朝のつどい	朝食		TAP		昼食	退所式									

【参加児童の学年別，男女別数】

学年	男子	女子	合計
5学年	23	26	49
（特別支援学級）	1		1
総計	24	26	50

【新たな体験先を開拓し，成果を生む体験活動を実施する上でのポイント】

○体験活動を実施する活動場所を実際に下見し，その特徴を把握する。

○体験活動を実施する活動場所が行っているプログラムを確認し，その特徴を把握する。

○利用する施設の職員の方と事前に打ち合わせをする際，活動のねらいを十分に説明し，ねらいを達成するために可能な活動やプログラムの組み立て方など，専門家の視点からのアドバイスを聞く。

○事前に立てた計画と異なる流れになることも想定し，その場合の教職員の動きや児童への指示の出し方などについても計画を立てておく。

○施設の利用の仕方について不明な点があったり，プログラムの内容について変更があったりしたときなど，できるだけこまめに施設の職員と連絡を取り，連携を図る。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置付け	実施場所	指導者
６月	・オリエンテーション	1	学活	学校	担任
７月	事前学習 ・集団行動に関する指導 ・役割分担 ・係打ち合わせ ・野外炊飯，スタンツの練習 体験活動と関連させた内容項目の学習	3 2	学活 道徳	学校	担任
７月	集団宿泊活動 ・オリエンテーリング ・天体観測 ・登山 ・野外炊飯 ・マウンテンバイク ・ナイトウォーク ・キャンプファイヤー ・ＴＡＰ	２４	学校行事	国立山口徳地青少年自然の家	学校職員 施設職員
９月	事後学習 ・体験活動のふり返り	1	学活	学校	担任

【体験活動の概要】

○野外炊飯

今回のプログラムでは，野外炊飯を２日目の午前中と３日目の午前中に実施した。２回実施した理由は，施設で行うことのできる野外炊飯プログラムが充実していること，３泊４日の期間中に同じプログラムを行うことで，１度目の活動の反省を生かした２度目の活動を行うことの２点である。

１回目の野外炊飯では，焼きそばを作った。３人１グループの生活班を２班合わせて，６人１グループで活動を行った。調理に使う道具の使い方や火の起こし方，調理の手順など，施設職員が丁寧に説明してくださった。野菜の切り方や材料を炒めるタイミングなども詳しく説明していただき，子どもたちも，具体的に自分の担当の仕事をイメージすることができたようであった。焼きそば作りは，前半は，切る作業，火をおこす作業，後半は，炒める作業，火を管理する作業と，作業内容がシンプルな上，６人で活動を行うにはちょうどよい作業量で，子どもたちは，とても充実した野外炊飯活動を体験することができた。

２回目の野外炊飯では，ピザづくりに挑戦した。他の施設にはあまりないプログラムで，ぜひ子どもたちに体験させたいと思う活動であった。この活動でも，施設の職員が調理の手順

を説明してくださり，特に，焼きリンゴ作りと平行して行う調理であったため，時間配分についての助言などは大変参考になった。子どもたちは，ほとんどが初めて行う作業ばかりであったが，自分たちでドラム缶に火をおこしたり，リンゴの芯をくりぬいたり，焼き色加減を見ながら生地を釜から取り出すタイミングを伺ったりしながら，とても集中して活動に取り組んでいた。また，1 回目の反省を生かし，役割分担を変えたり，片付けの効率を考えたりするなど，1 回目には見られなかった主体的な工夫や行動が見られた。なお，ピザづくりでは，学校の教職員で事前に材料を分けておく必要があるため，教職員の中で担当や時間を確保しておくことを忘れないことがポイントである。

○マウンテンバイク

山口徳地青少年自然の家では，様々な施設独自の活動を行っているが，その 1 つにマウンテンバイクがある。施設の中にある，約１㎞の起伏に富んだ専用のコースを，一人一台マウンテンバイクに乗って，走行する活動である。

活動前に，施設の職員から，自転車の乗り方，安全に走行するためのコース上のルールなどの説明を聞き，約２時間活動した。マウンテンバイクに乗っての活動なので，ほどよく体を動かす割には，疲れが少なく，長時間活動を楽しむことができた。また，木々に囲まれたコースのため，疲れたら木陰で休むことができ，何度もコースを回って走行を楽しむ子もいれば，休み休みマウンテンバイクに乗る子もおり，各自のペースで楽しむことができた。

○ＴＡＰ

マウンテンバイク同様，山口徳地青少年自然の家で行っている独自の活動で，グループワークを通して，協調性や信頼感を高めることをねらいとしている。専用のコースを使って，１グループ１２，３人程度で行う活動であり，各グループに専門的なトレーニングを受けた指導員がつき，指導をしてくださった。教職員は，グループの様子を観察する形で参加する。

子どもたちは，グループごとに，いかにボールを早く回すかを考えたり，細い綱の上にぶら下がっているロープを使いながら，全員が綱を渡りきる

方法を考えたりするなどの活動を行った。話し合う活動と体験活動を通して，一緒に過ごしてきた友達のことを改めて考え直したり，自分一人のことではなくグループ全体のために動いたりするなど，宿泊活動のまとめの活動として，ちょうどよい活動となった。

この活動では，教職員はアドバイスをしたり指導したりせず、担当の指導員が活動を進行する。普段は，一歩引いた立場で子どもたちを見る機会がほとんどないため，教職員も指導員の介入の仕方や子どもの様子を見ることでき，児童理解を深めるプログラムでもあったといえる。

【体験活動の効果を高めるための取組みのポイント（事後学習）】

・校外学習を行う際，野外活動で身に付けた習慣を意識して，行動するよう指導した。

・進んで活動する楽しさを意識し，学校行事で６年生を補佐し，中心となって取り組ませた。

・担任が全体に指示を出すのではなく，班長に指示を出し，班長がその他の児童に指示を伝達する体制をとった。例えば，野外活動と同じように班長を中心とした，整列隊形をとった。また，集合の際には班長が班の人数を確認し，その後担任に報告するようにした。

【交流先や施設等との連携及び安全面の配慮事項】

〇交流先や施設等との連携

・初めて活用する施設のため，下見で多くのことを確認できるよう，事前に打ち合わせの内容を整理していった。

・活動の変更や内容についての質問があるたびに，こまめに施設の職員と連絡を取り，確認をした。

・何度も連絡を取り合ったため，その中で行き違いのないよう，打ち合わせた内容は全てメモに残すようにした。

・毎日行われる施設での代表者会の担当者を決めることで，他の団体の様子や施設からの要望などを把握する教職員を１本化し，それに応じて活動を適時変更できるようにした。

〇安全面の配慮事項

・施設が広大なため，移動の際は，必ず全体で集合してから移動した。

・プログラム後や食事後など，児童が待機する場所が複数に分かれる場合は，児童だけを移動させるのではなく，必ず教職員が児童と一緒に移動して児童の様子を把握するようにした。

・夏の暑い時期の活動だったため，児童が水筒に入れるお茶以外に，２L のペットボトルを大量に購入し，水分が足りなくなった児童には，随時補給できるよう，教職員が持ち歩いた。

・水分補給については，施設の職員にお願いして，食堂が空いている時間帯以外にも必要に応じて補給できるようにしていただいた。

【体験活動の成果と課題】

○児童に実施したアンケート調査において，全ての項目で，事前調査より事後調査の方が，肯定的な回答を示す児童が多かった。特に，「自分にはよいところがあると思う」「相手の立場に立って考えることができる」の項目については，９割以上の児童が，肯定的な回答を示していた。

要因としては，

①今回実施したプログラムには，野外炊飯やマウンテンバイクなど，一人一人が活躍できる場が多く設けられており，自分の努力によって楽しく活動できる経験を，多く積むことができたこと。

②今回の宿泊活動では，３泊４日という長い間，学年の友達と過ごすことで，自分一人が勝手な行動をすることで人に迷惑をかけてしまうこと，自分のペースだけでなく，班の友達の様子も見ながら活動する必要があったこと，TAP という人間関係づくりに重点を置いたプログラムを実施したことなどにより，相手の立場を考えながら行動する場面が多くあったこと。

③３泊４日間，大きな事故もなく，普段経験することのできない活動を体験し，充実した活動であったという実感が大きかったこと。

などが考えられる。

○保護者に実施したアンケート調査において，全ての項目で事前調査より事後調査の方が，肯定的な回答を示す保護者が多かった。特に，「相手の立場に立って考えることができる」「自分とちがう意見や考えを受け入れることができる」の２つの項目については，事前事後での増加率が高い上に，９割以上の保護者が，肯定的評価をした。また，「相手が納得するように自分の気持ちを言葉で伝えている」については，否定的な評価が，３割から１割に減少した。

要因としては，

①家族の中での会話や友達との接している場面から子どもに見られる変化を感じることが多かったこと。

が考えられる。

○児童についても保護者についても，事後アンケート調査での結果に向上は見られたものの，追跡調査の段階では，いくつかの項目において，肯定的な評価が減少しているものが見られた。活動の成果は，活動を行うだけでなく，その後の継続した指導により，初めて定着するものであると考える。

よって，事後学習を含めて，学校での教育活動の中に，宿泊学習をしっかりと位置づけ，計画的に取組を行っていく必要があると考える。